

かみしばい

世界の

森のおはなし

世界「子供の森」探検ツアー

指導者用ガイドブック



目次

1章 世界の森のおはなし ～世界「子供の森」探検ツアー～の「かみしばい」	1
「かみしばいの紹介」	
・ 導入編：「世界の森のおはなし」	3
・ タイの森のおはなし	5
・ インドネシアの森のおはなし	7
・ フィジーの森のおはなし	9
2章 「かみしばい」活用のヒント	11
1. 「かみしばい」を上演してみよう！	
2. 「かみしばい」プログラムをやってみよう！	
・2-1. 「タイの森のおはなし」かみしばいを使ったプログラム事例	12
・2-2. 「インドネシアの森のおはなし」かみしばいを使ったプログラム事例	13
・2-3. 「フィジーの森のおはなし」かみしばいを使ったプログラム事例	15
3. いろいろな工夫	
・3-1. プログラムのアイデア	17
・3-2. 導入の工夫	20
・3-3. 対象者理解の工夫	20
・3-4. ふりかえりとまとめの工夫	21

1章 世界の森のおはなし

～世界「子供の森」探検ツアー～の「かみしばい」

世界「子供の森」探検ツアーは、「国際理解」や「環境」について考えるきっかけを楽しく簡単につくれる「かみしばい」です。

公益財団法人オイスカは、2012年、リオ+20を記念してアジア・太平洋地域の5カ国から子どもたちを日本に招聘し、各国の環境問題や子どもたちの活動・役割について議論する「世界子ども会議」開き、その中で（株）ヌールエの「動物かんきょう会議」の協力のもと、各国の動物たちの視点で環境問題を考えながら新しい動物キャラクターをつくりました。

この「かみしばい」は、各国の子どもたちから出た意見を元に各国の環境問題や森について動物キャラクターたちが主人公となって紹介し、ともに解決のためのアクションを考えたり、聞き手である子どもたち自身に行動を促す「おはなし」です。

パソコンを使った投影、プリントアウトした紙での上演、タブレット端末での上演など、様々な活動の形態に対応して使用できます。

あなたの国にとって「森」とは？

はじめに、関心の違いを各国のキャラクターたちが語ります

 <p>日本から タヌキのタック</p>	 <p>タイから ヘビのブアカオ</p>	 <p>インドネシアから カブトムシのシボラン</p>	 <p>フィジーから サンゴのコーラル</p>
日本の森の多くは、林業の衰退で手入れがされていません。間伐しないと木も成長できません。健全な森を守るためには、間伐作業と間伐された木材を活用することが大切なんだ	タイの森は、チーク材、マホガニー材など高級家具の材料となるため急激に伐採されてしまいました。木のない山は水害などの災害ももたらします。多くの仲間たちとの植林活動で山を再生するぞ！	インドネシアの森は生物多様性の宝庫とも言われている。だけど最近、森や山がどんどんなくなってしまっているし、ゴミの問題が大きくなってきて困っているんだ。みんなで協力して豊かな森を取り戻したいんだ	海岸ではマングローブがなくなり国土が高潮で浸食され、観光地では人によって珊瑚礁が荒らされている。美しい珊瑚の森とそこに生息する生き物たちを守るために珊瑚礁保全活動をしています
↓	↓	↓	↓
スギ・ケヤキの森 間伐	人が一緒に暮らす森 共生	恵みをもたらす森 多様性	海の森 保全・再生

<ホームページでできること>

- ・各国の「森のおはなし」の「かみしばい」を読む
- ・各国の情報を知る
- ・「かみしばい」の上演の方法を学ぶ
- ・「かみしばい」やその他の情報を使った、国際理解や環境のワークショップについて学ぶ、考える、ヒントを得る
- ・「かみしばい」のダウンロード
- ・「かみしばい」をタブレット端末で上演するためのアプリのダウンロード

<「かみしばい」でできること>

- ・子どもたちの集まる場での上演
- ・「かみしばい」を使ったワークショップ



本教材のホームページ

<http://animalconference.com/oisca/world/>

この教材は

平成 25 年度子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）の助成金の交付を受けて作成したものです。

問い合わせ先：公益財団法人オイスカ

〒168-0063 東京都杉並区和泉 2-17-5

Tel; 03-3322-5161 Email : oisca@oisca.org

「かみしばいの紹介」

～導入編：「世界の森のおはなし」～

日本からタヌキ、タイからニシキヘビ、インドネシアからカブトムシ、そしてフィジーからサングなど。いろんな国から、たくさんの種類の動物や生き物たちが集まってそれぞれ国の自然や文化、そして森のことを紹介します。



世界の森のおはなし

1 世界のおはなし

作 公益財団法人オイスカ

「世界のおはなし」は、世界中の動物たちが、地球をめぐって旅をするお話です。地球には、いろいろな動物たちが住んでいます。それぞれ、それぞれの国や地域に、それぞれの動物たちが住んでいます。地球には、いろいろな動物たちが住んでいます。それぞれ、それぞれの国や地域に、それぞれの動物たちが住んでいます。

地球には、いろいろな動物たちが住んでいます。それぞれ、それぞれの国や地域に、それぞれの動物たちが住んでいます。地球には、いろいろな動物たちが住んでいます。それぞれ、それぞれの国や地域に、それぞれの動物たちが住んでいます。

世界の森のおはなし

2 世界地図の上に登場キャラクター大集合

おや、動物たちが、世界中の色々な国から集まってきました。地球には、いろいろな動物たちが住んでいます。それぞれ、それぞれの国や地域に、それぞれの動物たちが住んでいます。

地球には、いろいろな動物たちが住んでいます。それぞれ、それぞれの国や地域に、それぞれの動物たちが住んでいます。地球には、いろいろな動物たちが住んでいます。それぞれ、それぞれの国や地域に、それぞれの動物たちが住んでいます。

世界の森のおはなし

3 日本から来たタヌキのタック

タヌキは、日本から来たタヌキのタック。ようこそ、日本へ。日本は、とても素敵な国です。日本の自然は、とても美しいです。日本の文化は、とても素晴らしいです。日本の動物は、とても可愛いです。日本の森は、とても静かです。日本の空は、とても青いです。日本の水は、とても清いです。日本の山は、とても高く、とても美しいです。日本の川は、とても流れています。日本の海は、とても深いです。日本の島は、とても美しいです。日本の町は、とても静かです。日本の家屋は、とても可愛いです。日本の食事は、とても美味しいです。日本の人は、とても優しいです。日本の未来は、とても明るいです。日本の夢は、とても素晴らしいです。日本の希望は、とても美しいです。日本の未来は、とても明るいです。日本の夢は、とても素晴らしいです。日本の希望は、とても美しいです。



世界の森のおはなし

4

フィジーから来たサンゴのダクワカ

◆イーストと「浮島」の森
フィジーの森には、サンゴの島々が点在しています。フィジーの森には、サンゴの島々が点在しています。フィジーの森には、サンゴの島々が点在しています。

◆動物から学ぶ自然の恵み
フィジーの森には、サンゴの島々が点在しています。フィジーの森には、サンゴの島々が点在しています。フィジーの森には、サンゴの島々が点在しています。

◆イーストと「浮島」の森
フィジーの森には、サンゴの島々が点在しています。フィジーの森には、サンゴの島々が点在しています。フィジーの森には、サンゴの島々が点在しています。



世界の森のおはなし

5

タイから来たニキヘビのアワカオ

◆イーストと「浮島」の森
タイの森には、ニキヘビの森が点在しています。タイの森には、ニキヘビの森が点在しています。タイの森には、ニキヘビの森が点在しています。

◆動物から学ぶ自然の恵み
タイの森には、ニキヘビの森が点在しています。タイの森には、ニキヘビの森が点在しています。タイの森には、ニキヘビの森が点在しています。

◆イーストと「浮島」の森
タイの森には、ニキヘビの森が点在しています。タイの森には、ニキヘビの森が点在しています。タイの森には、ニキヘビの森が点在しています。



世界の森のおはなし

6

インドネシアから来たフトムシのシボラン

◆イーストと「浮島」の森
インドネシアの森には、フトムシの森が点在しています。インドネシアの森には、フトムシの森が点在しています。インドネシアの森には、フトムシの森が点在しています。

◆動物から学ぶ自然の恵み
インドネシアの森には、フトムシの森が点在しています。インドネシアの森には、フトムシの森が点在しています。インドネシアの森には、フトムシの森が点在しています。

◆イーストと「浮島」の森
インドネシアの森には、フトムシの森が点在しています。インドネシアの森には、フトムシの森が点在しています。インドネシアの森には、フトムシの森が点在しています。



世界の森のおはなし

8

さあ、世界を森へ見に行こう

◆イーストと「浮島」の森
世界の森には、様々な動物たちが暮らしています。世界の森には、様々な動物たちが暮らしています。世界の森には、様々な動物たちが暮らしています。

◆動物から学ぶ自然の恵み
世界の森には、様々な動物たちが暮らしています。世界の森には、様々な動物たちが暮らしています。世界の森には、様々な動物たちが暮らしています。

◆イーストと「浮島」の森
世界の森には、様々な動物たちが暮らしています。世界の森には、様々な動物たちが暮らしています。世界の森には、様々な動物たちが暮らしています。

「かみしばいの紹介」

～タイの森のおはなし～

ニシキヘビのブアカオは、世界中からやってきた仲間たちと山へピクニックに出かけました。するとモクモクと煙が…。

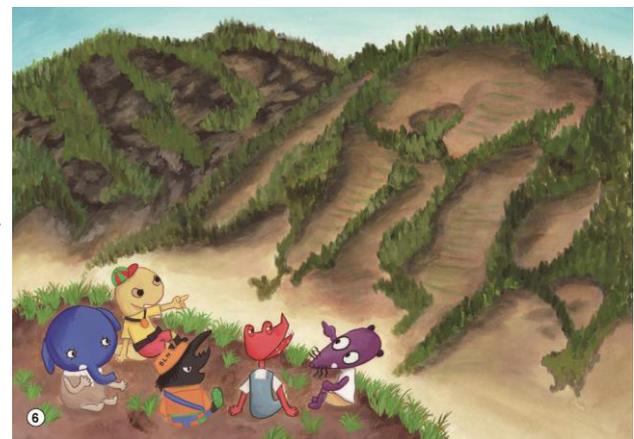
焼畑の問題を例に自然や森との共生について考えます。

タイの森のおはなし

1 **タイの森のおはなし**
作 公益財団法人オイスカ

■ 森へようこそ！
「森へようこそ！」
「ニシキヘビのブアカオが元気に挨拶していました。」
「こんにちは……」「ワッディークラップ」は、「ん」
に「ん」をつけて意味だね」
■ 日本から来たタヌキのタツタが、タイのガイドブックを見ながら言いました。
「あらタツタ、女性には「サワディーカ」って言うみたいよ。」
■ タヌキとタツタは、ケニアから来たツクワママと
同じ「ん」でも、女性と男性でもっと
言い方が違うんだよね。」
■ 「はい、いいえ、さあ行きますよ。」
■ プラシルから来たワニのワニ、インドネシアから来たカブトムシのシボランが、うすうすしながら言いました。
「動物たちは、これからピクニックに出かけるのよ。」
■ 「ピクニック？」
■ みんなで森の小道を楽しんで歩いていこうよ。」
■ 「あれ、誰か、たき火してるのかな？」
■ シボランが、もくもく立ちのぼる煙に気づきました。

■ 1. 森へようこそ！
■ 2. 動物たちは、これからピクニックに出かけるのよ。
■ 3. タヌキとタツタは、ケニアから来たツクワママと同じ「ん」でも、女性と男性でもっと言い方が違うんだよね。
■ 4. プラシルから来たワニのワニ、インドネシアから来たカブトムシのシボランが、うすうすしながら言いました。
■ 5. みんなで森の小道を楽しんで歩いていこうよ。
■ 6. あれ、誰か、たき火してるのかな？
■ 7. シボランが、もくもく立ちのぼる煙に気づきました。
■ 8. 焼畑の問題を例に自然や森との共生について考えます。
■ 9. 焼畑の問題を例に自然や森との共生について考えます。
■ 10. 焼畑の問題を例に自然や森との共生について考えます。



タイの森のおはなし

2

「あれが火だ」「あれが煙だ」
 「木も燃やされてしまった」
 「水もなくなっちゃった」
 「動物たちも逃げた」
 「森はもうなくなっちゃった」

「火が燃やした木はもう生えなくていいから、新しい木を植えてあげよう」
 「水もなくなっちゃったから、新しい水を運んであげよう」
 「動物たちも逃げたから、動物たちを呼び戻そう」

「火が燃やした木はもう生えなくていいから、新しい木を植えてあげよう」
 「水もなくなっちゃったから、新しい水を運んであげよう」
 「動物たちも逃げたから、動物たちを呼び戻そう」

「火が燃やした木はもう生えなくていいから、新しい木を植えてあげよう」
 「水もなくなっちゃったから、新しい水を運んであげよう」
 「動物たちも逃げたから、動物たちを呼び戻そう」

タイの森のおはなし

3

「あれが火だ」「あれが煙だ」
 「木も燃やされてしまった」
 「水もなくなっちゃった」
 「動物たちも逃げた」
 「森はもうなくなっちゃった」

「火が燃やした木はもう生えなくていいから、新しい木を植えてあげよう」
 「水もなくなっちゃったから、新しい水を運んであげよう」
 「動物たちも逃げたから、動物たちを呼び戻そう」

「火が燃やした木はもう生えなくていいから、新しい木を植えてあげよう」
 「水もなくなっちゃったから、新しい水を運んであげよう」
 「動物たちも逃げたから、動物たちを呼び戻そう」

「火が燃やした木はもう生えなくていいから、新しい木を植えてあげよう」
 「水もなくなっちゃったから、新しい水を運んであげよう」
 「動物たちも逃げたから、動物たちを呼び戻そう」



インドネシアの森のおはなし



②

「田植って、大変だね。」
 ドラウから来たアリスミのクワイが汗をかきながら言いました。
 「みんなひとつひとつ手植えるんだ。」
 シランが他の動物たちに苗の植方を教えています。
 「ランラン♪ 大変だけど、
 みんなでやれば楽しいね！」
 インドから来たタツタのモルが歌いながら言いました。
 「タツタは畑をやるのじょうずだよ。理いわねえ！」
 ケアから来たクワのクマが心配そうに言いました。「どうも、タツタのツツがまた来やしないよ。」
 「タツタは日本から持ってきた田植機で、動物たちは興味津々です。」

Copyright © 2010 by Shogakukan Inc. All rights reserved.

インドネシアの森のおはなし



③

「タツタは日本から持ってきた田植機で、動物たちは興味津々です。」
 ケアから来たクワのクマが心配そうに言いました。「どうも、タツタのツツがまた来やしないよ。」
 「タツタは日本から持ってきた田植機で、動物たちは興味津々です。」

Copyright © 2010 by Shogakukan Inc. All rights reserved.



2章 「かみしばい」 活用のヒント

1. 「かみしばい」 を上演してみよう！

- STEP1 まずはホームページでストーリーを読んでみる
- STEP2 自動音声機能で「かみしばい」の上演の例を聞いてみる
- STEP3 「かみしばい」に出てくる各国の自然や森、文化について、ホームページを参考にしながら調べてみる
- STEP4 実際に子どもたちや聞き手の前で上演：

<上演前の練習のコツ>

事前に声に出して読む

- ・1回目―黙読可。内容を理解する。 ・2回目―はっきりと声に出して読む。 ・3回目―表情をつけて読む。
 - ・4回目―画面に合わせて読む。 ※ ・5回目―手直しをする。
- ※誰かに聞いてもらう。出来なければ、録音して聞きなおす。

<上演のコツ>

- ・杵や台などを使うことによって『舞台』をつくり、集中（共感）の場をつくりだす。
- ・演じ手は舞台の横など聞き手の見えるところに立つ。（演じ手の顔が見えず、声や表情が届かないと、コミュニケーションがとれない。また聞き手の集中力も弱まる）
- ・「おわり・おしまい」を表す演じ手の言葉は、作品内容への強い集中を終らせるのははっきりと区切りをつけて伝える

- STEP5 聞き手の反応や感想を聞き出して、ふりかえりの時間をつくる
- ※プログラム事例のコーナーも参考にしてください。

2. 「かみしばい」 プログラムをやってみよう！

交流会やイベントやワークショップなどで、「かみしばい」にちょっと工夫すると、いろいろな気づきを得ることが出来ます。ここでは、「かみしばい」をつかったプログラムづくりについて紹介します。

★プログラム実施するときの基本

プログラムを「導入→展開→ふりかえり・まとめ」という流れで実施すること。

実施者は

- ①参加者にあわせること
- ②参加・体験型のプログラムが効果的
- ③参加者が「気づく」きっかけをあたえること
- ④日常生活での行動変容を意識すること

参加者が

- ①まわりの人や自然環境とのつながりを感じられること
- ②五感を使うこと
- ③自分の気持ち、相手の気持ちを大切にすること

これらのポイントをおさえて、“楽しく”実施することで、よいプログラムになります。

プログラムを Plan（企画）→ Do（実施）→ Check（評価）→ Action（改善）という PDCA サイクルを意識してマネジメント（実践）していきましょう。

ここでは、それぞれの国の「かみしばい」をつかったプログラム事例を紹介しています。

2-1. 「タイの森のおはなし」 かみしばいを使ったプログラム事例

タイ【プログラム事例 1】

●タイってどんなところ？

東南アジアの中心に位置し、ミャンマー、ラオス、カンボジア、マレーシアと国境を接する『タイ』。国土は日本の約 1.4 倍、熱帯性気候で、年間の平均気温は約 29℃。人口は約 6000 万人。国民の 95%が仏教を信仰している。タイの日常挨拶は「ワイ」と呼ばれる合掌のかたち。

■ねらい

- ・タイを知る。日本を知る。
- ・タイの焼き畑農業について知る。
- ・人と森のつながりを知る。
- ・自分とタイのつながりに気づく。

■プログラム概要

時間：80 分
人数：30 名
小学生以上対象（大人、親子参加可）

■プログラム展開案

導入＜ 20 分＞
・タイについて知っていることを聞く（宿題で調べてきてもらってもよい）

展開①＜ 20 分＞

- ・世界地図でタイの場所を確認。日本の場所と比べてみる。
- ・人口について、自分の住む市町村や県の人口と比べてみる。
- ・言葉について知ってもらおう。「こんにちは」「ありがとう」＜かみしばいを参照＞
- ・自然について考えてもらおう。熱帯のよいところや四季のある日本のよいところ。
- ・質問を聞く。答えられないものはあとで調べる。

展開②＜ 20 分＞

- ・かみしばいの読み聞かせ

まとめ・ふりかえり＜ 20 分＞

- ・タイでの植林について、オイスカの活動を伝える。
- ・宿題で日常生活の中でタイとのつながりを探してみる。テレビ、旅行会社、水など。

タイ【プログラム事例 2】

●みんなはどう考える？ 焼き畑！解決ランキング！

タイでは現在、広域な森林伐採と焼き畑が行なわれ、そこに生息する野生生物の絶滅が危惧されています。ここでは、この焼き畑という農法が抱える問題をどうすれば解決できるか、自分たちで意見を出し合いながら考えていきます。

■ねらい

- ・焼き畑のしくみを知る。
- ・焼き畑の問題を解決する為に様々な方法があることを知る。
- ・自分の意見を発表することができる。
- ・人によって解決方法の価値観が異なることを知る。

■プログラム概要

時間：60 分
人数：30 名 小学生以上対象（大人、親子参加可）

■プログラム展開案

導入＜ 20 分＞
・かみしばいの読み聞かせ

展開＜ 20 分＞

・焼き畑の問題を解決するためには、どんなことが必要か？
以下の 9 の解決要素を参考としたり、また自分でオリジナルの解決法も考えて
最終的には 10 の要素でランキング付けをおこなう。

まとめ＜ 20 分＞

- ・近くにいるもの同士でランキングを共有し、他の人のランキングと何が違うのかを意見を交わしながら比較する。
- ・最後は個々のランキングを貼り出して参加者全員で考えを比較する。

＜ランキング例＞

- ・焼き畑をやめる
- ・引越しをする
- ・政治、法律を変える
- ・植林する
- ・小規模な焼き畑にする
- ・先進国による援助に頼る
- ・一人っ子政策で国全体の食糧を減らす
- ・食糧はすべて輸入にする
- ・食べ物を変える

タイ【プログラム事例3】

●お家で発見！ウチの中の木をさがそう！

タイやインドネシアなどから多くの木材を輸入している日本。その背景で大規模な森林伐採行なわれ、現在そこに生息する野生生物の絶滅が危惧されています。一方そんな中でも、私たちの生活は『木』に支えられています。ここでは、暮らしの中の木製品に意識を向け、どれだけ「木」から恩恵を受けているかを理解します。

■ねらい

- ・身近な木製品について知る。
- ・私たちの暮らしは「木」の製品によって支えられていることを知る。
- ・木製品の原材料はほとんどが輸入であることを知る。
- ・自ら進んで課題に取り組むことができる。

■プログラム概要

時間：70分
人数：30名 小学生以上対象（大人、親子参加可）

■プログラム展開案

展開＜30分＞

導入＜20分＞

・かみしばいの読み聞かせ

- ・焼き畑でたくさんの木が切られている背景に、日本への輸出もあることを押さえながら、私たちの生活が「木」によって支えられていることを伝える。
- ・私たちの暮らしの中でどれだけ「木」を使っているものが多いか、生活の中にある木製品を発表してもらおう。（イス・机・ドア・しゃもじ・お椀・鉛筆など）
- ・4～5事例程度まで発表した後、続きを個々で考えて、記述してもらおう。

まとめ＜20分＞

- ・個々で考えた木製品について発表してもらおう（事例で発表したもの以外で）

2-2. 「インドネシアの森のおはなし」かみしばいを使ったプログラム事例

インドネシア【プログラム事例1】

●みんなで協力！ゴミバスターズ

かみしばいの中でも出てきたゴミ。日本でも様々な場所でゴミ問題が起こっています。ここでは自然を守るために、みんなで協力してきれいにすることの大切さを体験通じて学びます。

■ねらい

- ・グループで意見を出し合って、方針を決める。
- ・協力の大切さを知る。
- ・自分の意見を発表することができる。

■プログラム概要

時間：80分 人数：30名 小学生以上対象（大人、親子参加可）
場所：広い部屋、屋外
準備するもの：ペン（人数分）、裏紙、袋か小さなダンボール箱（ゴミ箱用）、ストップウォッチ。

■プログラム展開案

導入①＜20分＞
・かみしばいの読み聞かせ

導入②＜20分＞

- ・アイスブレイク：部屋の四隅で実施。ポテトチップス、駄菓子、チョコ、おせんべいの4つで、好きなおやつは？という質問で、分かれてもらい、それぞれのおやつに対する主張を語ってもらおう。アイスブレイク終了後、参加者に『おかしを食べた後、何が残る？』と問いかけ、次の展開につなげる。

展開＜30分＞

●ゴミ箱ゲームの体験

- ・小さなカードに番号が書いてあるものをゴミに見立て、全員で協力して、番号順になるべく早くゴミ箱に入れる。ただし、一度に何個もゴミをもって移動することはできない。
- ・移動するときはひとり1個のゴミしか運べない。ルール違反をしたときはペナルティ10秒/回をタイムに追加。スタートから最後のゴミがゴミ箱に入ったところまでタイムを計る。
- ・手順
 - ①番号の書かれた紙をくしゃくしゃにする。説明用に1-10番は別にしておく。
 - ②ルール説明。何人かに協力をお願いして、スローモーションで10番までのゴミ拾いをやってみせる。
 - ③ごみを全部ばらまいて、本番。
 - ④作戦タイムを与えて、もう一度やってみる。
 - ⑤前回よりも、早くなったか遅くなったかを聞き、タイムも予想してもらおう。
 - ⑥時間があれば、さらに作戦をたてて実施。

まとめ＜10分＞

参加者からの感想を聞く。どんなところを工夫したか。よかったところ、悪かったところ。楽しかったところ、おどろいたことなど。たくさん気づきを引き出して共有する。そして「もし、これが本当のゴミだとしたらどうだろう」と問いかけてゴミへの関心を深める。

インドネシア【プログラム事例2】

●森って、何？

インドネシアで、近年大きな問題となっている大規模な森林伐採。木材、パームオイル、用地開発など、すべて人の生活を支えるために伐採されています。このまま伐採が続くとどうなってしまうのでしょうか？どうすれば持続可能な森の開発ができるのでしょうか？

■ねらい

- ・ 森の役割を知る。
- ・ 森が無くなった世界を想像することができる。
- ・ 森が与えてくれる恩恵を知る。
- ・ 自分の意見を発表することができる。

■プログラム概要

時間：60分
人数：30名
小学生以上対象（大人、親子参加可）

■プログラム展開案

導入＜20分＞
・ かみしばい読み聞かせ

展開①＜10分＞

- ・ 森のいいところって何？（発問）
- ・ 森のいいところ（私たちの生活に有益なこと）は何かを発表してもらおう。
- ・ 個々を板書しながら、森のたくさんのメリットについて共有し、森に生かされている感覚を持ってもらう。

展開②＜10分＞

- ・ もしも森が無かったらどうなる？（発問）
- ・ もしも森が無かったら、どんな生活になるかを想像しながら、発表してもらい、森の大切さについて、身近に感じてもらう。

まとめ＜20分＞

- ・ 感想を発表してもらいながら、森や身近な自然を大切にしたいという気持ちを共有し、より身近な自然に目を向けてもらうために、近くにある公園や鎮守の森など、どんな自然の場所があるか発表してもらおう。また実際に行ってみて、いいところや特徴等を宿題として調べてもらう。

インドネシア【プログラム事例3】

●食べてみよう！！世界のお米

かみしばいの中で動物たちが育てていたお米はインディカ米（長粒米）。一方、日本のお米はジャポニカ米です。どちらも同じお米ですが、形や味が違います。ここでは日本と世界の『お米』を食べ比べることで、世界の文化の違いについて理解します。

■ねらい

- ・ いろいろなお米の存在を知る。
- ・ お米の種類によって味が違うことを知る。
- ・ お米を通じて世界の違いを理解する。
- ・ 自分の意見を発表することができる。

■プログラム概要

時間：70分
人数：30名 小学生以上対象（大人、親子参加可）

■プログラム展開案

導入①＜20分＞

- ・ かみしばいの読み聞かせ

導入②＜10分＞

- 海外のお米への意識付けとして、インドネシアの田んぼがある風景（棚田）の写真とインディカ米の実物を見せ、日本のお米との違いを感じてもらおう。
- 次に、日本のお米に対する意識付けとして、田んぼがある風景の写真とジャポニカ米の実物を見せ、インドネシアのお米との違いを感じてもらおう。

展開＜20分＞

- ・ 日本とインドネシアの米文化の違いを、「一般的な食べ方」「料理バリエーション」「米の袋」などの視点で、写真カードとして用意。どちらの国にそのカードがあてはまるかを3～4人のグループで考えてもらう。（みんな完成したら正解発表）
- ・ その後、あらかじめ炊いておいたジャポニカ米とインディカ米を試食。実際に食べて、食文化の違いを感じる。

まとめ＜10分＞

- ・ 体験してみてもの感想を共有する。
- ・ 宿題として、自分の家ではどんなお米を食べているのか調べてみる（産地、購入地、精米法など）。

2-3. 「フィジーの森のおはなし」かみしばいを使ったプログラム事例

フィジー【プログラム事例 1】

●フィジーってどんなところ？

約 300 の島々からなる島国。標高 1300m の山もあり、水が豊富。フィジーウォーターとして世界各国へ輸出している。人口約 80 万人。多民族国家。フィジー人約 50%。つまりフィジー語は世界中で 40 万人だけの言葉。比べてみるとおもしろい。

■ねらい

- ・フィジーを知る。日本を知る。
- ・フィジーのサンゴについて知る。
- ・フィジーのサンゴと森のつながりを知る。
- ・自分とフィジーのつながりに気づく。

■プログラム概要

- 時間：90 分
- 人数：30 名
- 小学生以上対象（大人、親子参加可）

■プログラム展開案

- 導入＜20 分＞
- ・フィジーについて知っていることを聞く（宿題で調べてきてもらってもよい）。

展開①＜20 分＞

- ・世界地図でフィジーの場所を確認。日本の場所と比べてみる。
- ・人口について知ってもらおう。自分の住む市町村や県の人口と比べてみる。
- ・言葉について、「こんにちは」「ありがとう」「さようなら」＜かみしばいを参照＞
- ・自然について、常夏のよいところや四季のある日本のよいところ。
- ・質問を聞く。答えられないものはあとで調べる。

展開②＜20 分＞

- ・かみしばいの読み聞かせ

まとめ・ふりかえり＜30 分＞

- ・海のサンゴや山の植林について、オイスカの活動を伝える。
- ・かみしばいの中にフィジーらしいものがあったか聞く。
- カバの儀式、やしの木、マングローブなど。またそれらがどのように役立っているか。
- ・宿題で日常生活の中でフィジーとのつながりを探してみる。テレビ、旅行会社、水など。

フィジー【プログラム事例 2】

●サンゴ新聞

普段、あまりなじみのないサンゴ。実は、地球のいろんなところで役立っています。そのサンゴについて新聞をつくってみる。みんなで分担して調べると、それぞれの視点で色々なことが分かっておもしろいよ。

■ねらい

- ・フィジーのサンゴと森のつながりを知る。
- ・サンゴの役割を色々な視点で調べる。
- ・読み手のことを考えて書く。

■プログラム概要

- 時間：120 分（60 分×2 時間）
- 人数：28 名 小学生以上対象（4 人グループで作業する）

■プログラム展開案

導入＜5 分＞

- ・4 人ずつのグループになる。

展開①＜20 分＞

- ・かみしばいの読み聞かせ

展開②＜20 分＞

- ・サンゴのことを周りの人へ伝えるために新聞をつくる。グループで 1 面（A2）。
- ・本物の新聞を見て、どんな紙面があるか調べる。社会面、科学面、4 コマ漫画、国際面、スポーツ面など。4 人が異なった紙面の視点でサンゴについて記事を書く。各自 A4 で 1 ページ分。新聞名や日付、記者名を書く場所を空けておく。

ふりかえり・まとめ＜15 分＞

- ・グループごとに感想と、どのような視点で書くことになったか報告する。

習得

- ・宿題で 1 ページずつ記事を書いてくる。
- 導入＜10 分＞
- ・各グループ内で、どんな記事を書いたか読みあう。
- 展開＜20 分＞
- ・紙面を切り貼りして作成し、プレゼンの準備をする。
- まとめ・ふりかえり＜30 分＞
- ・各グループで発表し、感想を共有する。後で読めるようにしばらく掲示しておく。

フィジー【プログラム事例3】

●サンゴでクラフト♪

お話の中に出てくる、サンゴとつながるいろいろな動物たち、植物たちを探してみましょう。また、実際にサンゴを見たりさわったりしたことありますか？お話の後、サンゴでクラフトをつくりましょう。

■ねらい

- ・生物多様性を知る。
- ・サンゴの現状を知る。
- ・サンゴの音を楽しむ。

■プログラム概要

時間：90分
人数：30名 小学生以上対象（大人、親子参加可）

■プログラム展開案

導入＜20分＞
・かみしばいの読み聞かせ

展開①＜20分＞

- ・このお話に出てきた動物や植物をリストアップしてみよう。何個あるかな？
- ・どんなところに住んでいるかな？
- ・それぞれどんなつながりがあるかな？
- ・壁や黒板に紙芝居を貼ると、絵を見ながらリストアップできます。

展開②＜30分＞

- ・サンゴを守るために、山で木を植えることを復習。
- ・生まれるサンゴより死ぬサンゴが多いと、いつかサンゴは絶滅してしまいます。クラフトで使うサンゴは死んだサンゴです。これが細かくなって、南の島の白いきれいな砂浜になっています。
- ・サンゴでクラフトをつくろう。
タコ糸で何個か間隔をあけて固定し木の枝に結びと、ゆれるとサンゴ同士がぶつかって、きれいな音が聞こえる。
- ・サンゴを結んで首飾りをつくるのもよい。ロープワークも学べる。

まとめ・ふりかえり＜20分＞

- ・作品展。ひとりずつ作品を紹介する。感想を発表して共有する。



3. いろいろな工夫

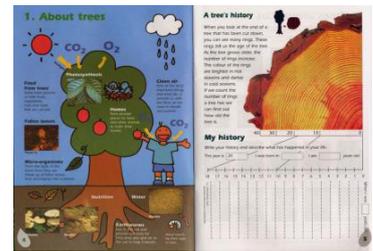
導入 - 展開 (かみしばい) - 展開 (アクティビティ) - ふりかえり・まとめ、のポイントをおさえて、プログラムのコンセプト (テーマやねらい) にあわせて、かみしばいの前後にどんなアクティビティをすればよいかアイデアをまとめました。かみしばいを導入にしたり、まとめに使ったりするのも、実施者のアイデア次第です。ここに、アクティビティのいろいろな工夫を紹介します。

3-1. プログラムのアイデア

3-1-1. 森林保全プログラムの例 『FOREST』 10回プログラム

下記、『FOREST』(2003年)のアクティビティです。いくつか組み合わせても、一つずつでも、かみしばいととも実施するアクティビティとして活用できるかもしれません。これはフィジーの小学生用に書いた本なので日本の木や内容に変えて実施してください。

1) 木について



- ・木のしくみ (絵と写真で)。
- ・年輪のはなし※注四季がない国では年輪が見えないことも。
- ・「私の歴史」年輪にあわせて自分の歴史を書く。

2) 私たちのまわりの木



- ・まわりの木のチェックリスト。
- ・「友達の木」を見つけ、よく観察してスケッチをし、ニックネームをつけて物語を作る。

3) 私たちの国の木



- ・メジャーな木のリスト。生活の中での使われ方、貿易で扱われた歴史などが書かれている。生活や社会とのつながりを知る。調べ学習にもよい。

4) 世界の森の地図



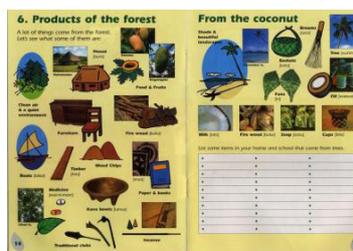
- ・いろいろな森があることを知る。
- ・写真と地図の位置を整合させ、チェックができる。
- ・地球全体の森を考える時間に。

5) 森の役割



- ・生物多様性が豊かな森の写真を見せる。
- ・自分たちの近くの森を見に行く。
- ・参加者の体験を聞く。

6) 森の製品



- ・現地の木・ココナツ製品の紹介。
- ・生活とのつながり、森の利用方法。
- ・自分のまわりの木・ココナツ製品をリストアップする。

7) もし森がなかったら



- ・5) と対比して、森がないときに何が起るかを予想する。
- ・土砂崩れや、海岸侵食を見に行く (または写真で見せる)。

8) 木を植えよう!



- ・普通の木とマングローブの植え方。
- ・実際に植える。
- ・森林局などにサポートを依頼。

9) 木を育てよう!



- ・木の手入れをする。
- ・『私の森』理想の森の地図を書く。
- ・5年後10年後30年後の植えた木と自分を想像する。

10) 私たちの未来

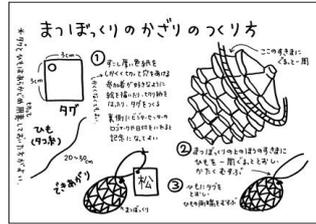


- ・現地のきれいな自然の景色を見に行く (写真で見せる)
- ・「私の夢」を書くスペース
- ・「私にできること」を書く

3-1-2. クラフトいろいろ

自然素材を使った工作も、参加者には好評です。まわりに落ちている、木の枝や、石や、松ぼっくりなどで、工作のバリエーションを増やしてみましょう。素材は地域にあるものを利用しましょう。

<松ぼっくりのかざり>



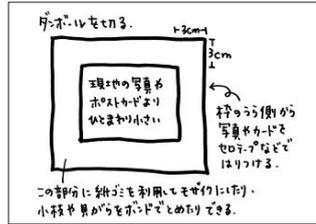
松ぼっくりに、色紙のタグをつけるだけの簡単な工作。松ぼっくりのかさの間にタコ糸を一周とおし、かたく結んで、タグをとおした後、輪をつくってできあがり。参加者が松ぼっくりを選び（拾い）、タグを自由につくる。松ぼっくりを複数つなげたり、アレンジもできる。お菓子の箱など、タグにつかう色紙を工夫するとよい。

<和紙石>



手ざわりのよい、まるい小石を拾い、色の紙を水でやわらかくしてはりつけていく。和紙をつかうことが多いが、やわらかい紙があればつくれる。ほかの工作をしたあとの残り紙でもできる。日本では、和紙を「わがみ」とよんで、自分のしあわせを願いながら紙をはると、落ちついたプログラムになる。1回20分程度

<フォトフレーム>



自然物の宝探しをして、みつけた宝物でフォトフレームを作るのもいい。ダンボールで枠を用意して、ボンドで貼りつけて、お好みにあわせて色をつけたりも可。木の実や木の葉、貝がらやサンゴのかけら、カラフルな紙ごみのモザイクなど、フォトフレーム自体もいろいろな応用ができます。

<自然クラフト>

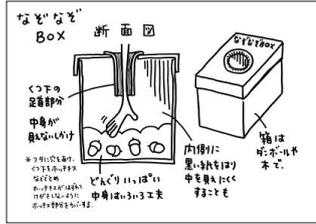


特につくり方はない。木の実に穴をあけて腕輪をつくったり、はがき大の大きさにダンボールを切って、木の枝や落ち葉をすきないようにボンドではりつけたり、フォトフレームもできる。麻ひも・ダンボール・ボンドなどの材料もそろえ、木の実や小枝は種類ごとに分けておく。カビや虫に気をつけ、風とおしのよいところで保管すること。

<いろいろクラフト>

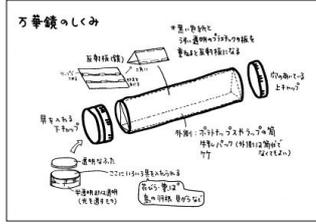
- ・葉拓…葉っぱや幹に薄い紙を重ねて、鉛筆やクレヨンなどでこする。葉っぱに絵の具をつけて、スタンプのように拓をとることもできる。
- ・自然葉書づくり…無地の葉書用の紙を用意しておく。切り紙で自然のかたちを表現したり、押し花や押し葉をはったり、直接葉っぱに書くのもよい。各国の郵便事情にもよるが、郵送に問題のない作品であれば、自分宛や友達宛に手紙を書いて投函するまでのプログラムも楽しめる。
- ・積み木づくり…間伐材や枝打ちした木を小さく切ったものを用意し、参加者にヤスリをかけてもらうだけのプログラム。ヤスリをかけるほど、手ざわりがよくなり、愛着がわいて大切なものになり、世界にひとつだけの積み木ができる。

<なぞなぞ box>



ダンボールのふたに丸い穴を開けて、靴下の足首の部分で入り口を作る。箱の中に、どんぐりや松ぼっくりなど、その公園に落ちているものを入れて、靴下の入口から手を入れて、何が入っているか当てる。簡単にふたを外せるようにしておけば、答えあわせはふたをあげて。

<自然万華鏡>



万華鏡の具をいれるところに、松の葉や椿や桜の花びら（押し花にしたもの）、鳥の羽根など、自然の具を入れるときれい。空の万華鏡に自然の具を拾ってきて入れるのもおもしろい。万華鏡キットは日本では売られているが、手作りでもできる。

<どんぐりころころ迷路>



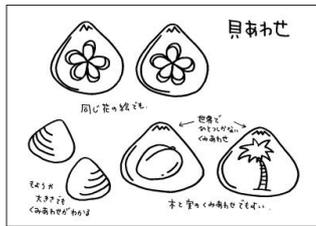
箱に、小枝をボンドでつけて迷路をつくり、どんぐりをころころ転がして、はじめからおわりまでのタイムをはかる。どんぐりが楕円なので、思ったように転がらない。小枝の壁を跳びこしてしまったら5秒のパナルティなど。「本日の記録」のボードをつくって、ほかの参加者との競争もおもしろい。

<鼻はな耳みみ>



フィルムケースを写真屋さんでもらい、自然の素材を入れて、匂いや音で中身を当てる。匂うときにキャップをあげるので、お茶パック・ガーゼなどで見えないようにする。素材は、香りのする花（毎日新鮮なものを）、乾燥しても香りのするもの（みかんの皮や月桂樹など）、お茶の葉、音は豆や塩など。

<貝あわせ>



はまぐりなどの貝を用意。全部を裏返して置き、もようや大きさを見てみあわせを見つける。にている貝でも、蝶番がぴったりあわないとちがっている。くみあわせがあれば、貝の内側の絵もあう。まわりの自然の絵や、葉や実や押し花、シール等を貼りつけてもよい。同じ絵ではなく関係性のある絵をくみあわせて描くのもおもしろい。

3-2. 導入の工夫

導入は、プログラムの第一印象でもあり、とても大切なところ。とくに、参加型のプログラムに慣れていない人々が、導入の部分で、参加を強制されているように感じたら、その後の参加がうまくいかないことが多々あります。例えば、全員の中でひとりで発言するような状況が悪いプレッシャーになったり、お互いが知りあえていないときに、自分の話すことが自慢に聞こえないか心配になったり、いろいろなところに、落とし穴があります。でも、参加者の立場になって考えると、落とし穴が見えるようになり、悪い状況を回避できるようになります。導入のポイントは、安心感をあたえることと、楽しく参加できる雰囲気づくりです。

3-2-1. あいさつ

まず「こんにちは」とあいさつすることが、よい導入になります。あいさつはあたりまえのことなのですが…。明るく笑顔で大きな声であいさつをするだけで、参加者の気持ちはうれしくなり、安心感をあたえるものです。知らない人同士の時も、よく知っている人同士の時も、あいさつは心の扉をノックするような感じで、プログラムのはじまりには欠かせないものです。

3-2-2. 『世界の国からこんにちは』

世界のいろいろな国の「こんにちは」をつかって、あいさつをする「世界の国からこんにちは」というアクティビティ。あいさつだけでなく、水、木、空など自然を表す言葉は、現地語でも簡単な発音の言葉が多いので、自然を表す言葉であそぶことにも応用できます。

各国のかみしばいの中から、言葉のあるページをめきだして各国の言葉であそんでみるのもおもしろいかもしれません。

例「日本語あいさつ」

Fijian	English	Japanese
Bula	Hello	Konnichiwa
Vinaka	Thank you	Arigatou
Moce	Good bye	Sayonara

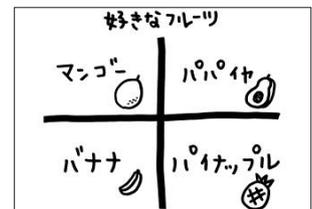
3-3. 対象者理解の工夫

参加者（＝対象者）にあわせてプログラムを進めるためには、参加者の情報を得なければなりません。事前にも情報を得ますが、特に初対面の場合には、それぞれの経験や好みなど傾向をつかむために、その場でも情報を得る必要があります。また、実施者だけでなく、参加者同士もどのような人たちの中に自分があるのか知りたいと思っています。名前を覚える工夫もお互いを知る第一歩で、安心感のある場をつくる方法のひとつです。いつもの自己紹介に、一言「どんぐりが好きな〇〇です。」と自然環境の言葉を入れてみるだけでも違います。導入で、楽しく参加できる雰囲気をつくりながら、同時に対象者理解を進めることができます。気をつけることは、参加者が答えたくない質問をしたり、その質問によって特定の人を傷つけたりしないように配慮することです。

3-3-1. 『部屋の4すみ』と『旗あげ方式』

4つの選択肢をつくって、部屋の4すみに分かれるゲームです。屋外の場合はしるしをつけて4ヶ所を決めておきます。大人数にも対応し、全体の傾向を把握することに向いています。

「名前の文字数が奇数か偶数か」など2つの選択肢からはじめて選択肢を増やします。まず分かれることに慣れてから、4すみを「はい」「いいえ」「ときどき」「わからない」など2-4段階にわけて、「日本のことを何か知っていますか?」「ボランティアをしたことがありますか?」「環境のことを考えることはありますか?」という質問もできます。椅子や机があって動けないときは、4色のカード（A5サイズ以上、クリップなどでとめておく）をセットで渡し、その場で、選択した色カードをもって高くあげる“旗あげ方式”もひとつの方法です。後ろの人も前の人の色が分かるようにしましょう。“旗あげ方式”は、“部屋の4すみ”のように、グループになる一体感はありませんが、プログラムの途中で1問だけでもぱっと使えて、手早く全体の傾向を見ることが出来ます。4色のカードはプログラムの終わりに回収して、何度も使いましょう。



4. ふりかえりとまとめの工夫

プログラムの流れ「導入→展開→ふりかえり・まとめ」の3つの部分は、どの部分が抜けてもプログラムが成り立たないほど重要なものです。なかでも、「ふりかえり・まとめ」は、展開の部分での体験や「気づき」が、学びとなって身につく過程としての重要な役割があります。「ふりかえり」がどのようにどの程度実施されるかによって、学習の深まり方が変わっていきます。「ふりかえり・まとめ」のための余裕をみるくらい、しっかり時間を確保しておきましょう。

プログラムの中で体験したこと気づいたことを、ふりかえり、言葉にして文章に書くことで、自分の中で整理ができます。個人のふりかえりを小さなグループでわかちあい、他の参加者の言葉を聞くことも、参加者自身の体験や「気づき」にプラスされ、よい学びになります。

4-1. ふりかえり手順の例

- ①ひとりひとりに、心に残った「気づき」を紙に書いてもらう。
- ②2-4人の小さなグループで「わかちあう」。自分の書いたことを読みあげ、グループメンバーの「気づき」を聞き、グループでの対話から、別の視点や、自分が見落としていた「気づき」に気づく。
- ③全体のまとめ、ほかのグループのまとめを聞いたり、個人やグループからの質問にこたえたり、最後に実施者のまとめの言葉からも、得られる学びがある。

4-2. まとめ言葉の例

「みなさんのまわりにはいろいろなすばらしい自然がいっぱいですね。どうぞこの風景を大切に、これからもこの自然の中で、いろいろな発見を楽しんでください」…参加者のまわりの自然のすばらしさをほめ、日ごろ見落としがちなこと、あたりまえになっていることに気づくことの大切さを伝え、日常生活でも楽しくつづけていけるようにまとめる。

+プラス アクティビティづくりの工夫

アクティビティのレパートリーが多いほど、対象者にあったものが選べます。まずはじめは、知っているゲームやあそびをアレンジするところから、レパートリーを増やし、だんだん慣れてくると、オリジナルなアクティビティがひらめくようになります。

アクティビティはいつでも活用できるように整理しておきましょう。セミナーに参加したり、本やホームページでもアクティビティを集めることができます。しかし、自分自身だけでは、習得できるアクティビティもそれほど多くはありません。人とのつながりを大切に、アクティビティの情報交換も積極的に行なうとよいでしょう。人とのつながりの中で、レパートリーは無限に広がります。

ビンゴ、カルタ、おにごっこなどは、多くの国で親しまれているあそびです。これらをアクティビティにアレンジすると、ルール説明も簡単になり、伝えたいことが伝わりやすくなります。まずは、知っているゲームのアレンジから、はじめてみましょう。

1. 知っているゲームのアレンジ例

+ビンゴ

『自己紹介ビンゴ』

1から99の数字の中で、自分にとって意味のある番号、例えば誕生日、家族の人数、思い出のある番号を、マスに目に入れる(5×5、4×4)。歩いてほかの人と紙を見せあう。同じ数字があったらその理由を話しながらお互いの名前をマス目に書きこむ。縦・横・斜め、いずれかの一列が埋まったら「ビンゴ!」。

『フィールドビンゴ』(ネイチャーゲーム)

4×4のマスに、黄色い花・水の音・ふわふわしたもの・葉っぱ・動物の落し物・白いもの・丸いもの・チョウ・木の実・鳥の鳴声・くもの巣・いいにおい・ぬけがら・たべられるもの・生活に役立つもの・今日のスペシャルなど、16個の項目を書く。探して見つけたものを丸で囲み、列をそろえる。時間を決めて、その間で何本列ができたかを聞く方法でもよい。項目から参加者と一緒に考えても楽しめる。

+カルタ

『動植物カルタ』

その地域にいる動植物のカードをつくる。全員に1枚ずつカードを渡し、ほかの人には見せないでなんの動物かを確認してもらい、もう一度集めて取り札にする。時計回りにひとりずつ、回答者になり、ほかのメンバーは「足は4本?」「草を食べる?」など、Yes/Noで答えられる質問をしながら、全員で取り札の中から該当する動植物をさがす。

+おにごっこ

『フィジーおにごっこ』

発想の転換。日本では、鬼が追いかけるが、フィジーでは鬼が追いかける。タッチした人が次の鬼になる。

◆オイスカと「子供の森」計画 とは

「子供の森」計画はオイスカが世界各地で推進している子どもたちの植林活動及び環境教育の支援プログラムです。1991年より開始し、現在までに33の国と地域の4,600以上の学校が参加しています。オイスカは、国連経済社会理事会の諮問資格を持つ国際協力NGOで、1961年の設立以来、アジア太平洋地域の開発途上国を中心として農林業開発協力、環境保全活動、人材育成を推進しています。

<http://www.oisca.org/>

◆動物かんきょう会議とは

世界のさまざまな地域から集まった動物たちが、身近な「かんきょう問題」をテーマに会議をくりひろげるお話です。子どもたちが「環境問題と異文化に興味をもち、自ら考え、行動する人間になってほしい」と願いをこめて、1997年にはじまったプロジェクトです。絵本とアニメーション（NHK教育TVで放映）があります。

<http://animalconference.com>

電子かみしばい制作チーム <http://animalconference.com/oisca/world/>

企画・監修：公益財団法人オイスカ

作と絵：公益財団法人オイスカと動物かんきょう会議プロジェクト

キャラクター：ダクワカ、リノ、プアカオ、モール、シボラン（c）オイスカ／ヌールエ
タック、ウータ、トラジー、ハリィ、ゾウママ、ワニール（c）ヌールエ

キャラクター制作協力：動物かんきょう会議プロジェクト（c）ヌールエ
協力：

- ・株式会社 ヌールエ（電子教材作成）
- ・筒井公子（脚本（フィジー））
- ・井内雅倫（脚本（タイ、インドネシア））
- ・宮地和代（絵）
- ・有限会社グレイシアアカデミー（プログラム作成、監修補助（フィジー））
- ・遠松優香（「かみしばい」上演音声）
- ・海と空のプロジェクト（監修補助）
- ・各国の「子供の森」計画の子どもたち

かみしばい 世界の森のおはなし～世界「子供の森」探検ツアー 指導者用ガイドブック

発行：2014年3月

編集：有限会社グレイシアアカデミー
公益財団法人オイスカ

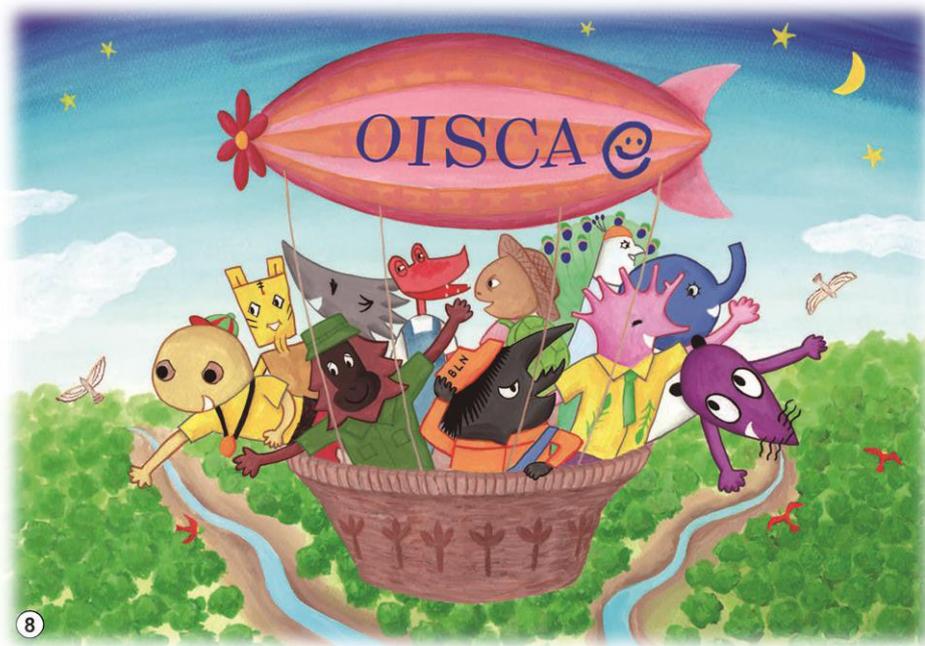
発行者：公益財団法人オイスカ

〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5

TEL：03-3322-5161

FAX：03-3324-7111

E-mail:oisca@oisca.org



かみしばい

世界の森のおはなし～世界「子供の森」探検ツアー
指導者用ガイドブック

この教材は、平成 25 年度子どもゆめ基金（独立行政法人国立教育振興機構）
の助成金の交付を受けて作成しています。